

FD 委員会活動報告 : Sports Coaching Competency Test

山 靖¹⁾ 神田 忠彦¹⁾ 谷口 裕美子¹⁾ 中垣 浩平¹⁾
 安田 貢¹⁾ 東山 昌央¹⁾ 三本木 温¹⁾

Kariyama Yasushi¹⁾ Kanda Tadahiko¹⁾ Taniguchi Yumiko¹⁾ Nakagaki kohei¹⁾
 Yasuda Mitsugu¹⁾ Higashiyama Masao¹⁾ Sanbongi Yutaka¹⁾

現代に生きるスポーツ指導者には、多様で複雑な状況に対応するとともに、適切に判断し行動できるコーチングの資質・能力が求められている。そのために、本学部を含む体育・スポーツに関連する教育機関では、これらの資質・能力を育成するとともに、適切に評価する必要がある。

スポーツ科学部では、本年度より1年生および2年生を対象に「スポーツ指導者コンピテンシーテスト (Sports Coaching Competency Test : SCCOT)」を導入した。SCCOTは、日本のスポーツ界が求めるコーチの資質・能力である「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を可視化するためのテストであり、コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム (日本スポーツ協会, 2016)、グッドコーチに向けた「7つの提言」 (文部科学省, 2015)、さらにはコーチングに関する国内外の論文や書籍を基に、鹿屋体育大学にて開発された。

SCCOTによって評価されるコンピテンシーを図1に示した。まず大項目としての「学習・活用力」、「他者力」、「対自己力」の3つがある。そして、その大項目を細分化した中項目、そして小項目に分類されている。これらの結果は、個人ごとに結果報告書としてまとめられ、各項目の説明と共に数値化された得点が返却される。つまり、コーチングに関する自身の資質・能力が定量化され学生の手元に届くことになる。2019年度においては、この結果報告書を用いて、コーチングに関する強みや弱み (改善点) を学生自身が振り返るとともに、それぞれの強化や改善の手立てを考案する取り組みをアクティブラーニング形式で実施した。

次年度以降も継続してSCCOTを実施し、学生のコーチングに関する資質や能力の評価、さらには課題発見を促したい。また、測定結果を様々な分析することで、本学部生に対するSCCOT実施の利点や意義をより明確にすることも必要である。

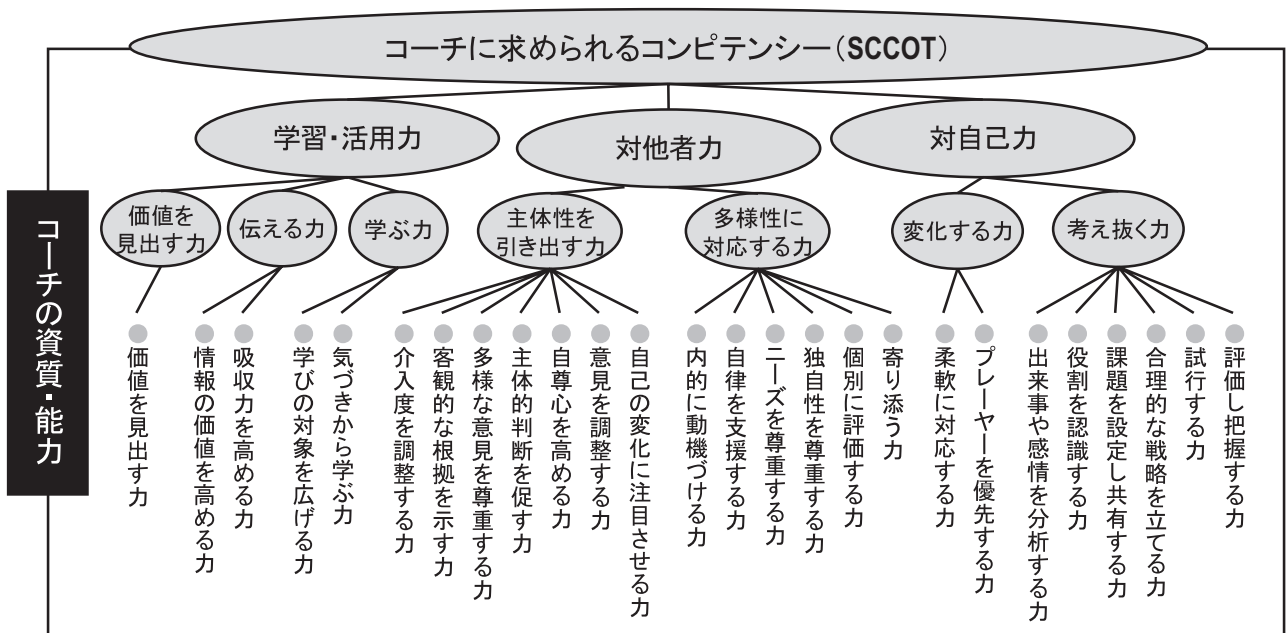


図 1. SCCOT によって評価されるコンピテンシー

¹⁾ 山梨学院大学スポーツ科学部

